

主要農作物の奨励品種に指定をしたものは、次のとおりです。

令和三年十月十二日

奈良県知事 荒井正吾

#### 一 奨励品種に指定した品種

小麦「はるみずき」

#### 二 来歴（年度は、は種年で表示）

この品種は、平成二十年度に近畿中国四国農業研究センター（現在の西日本農業研究センター）において、「ミナミノカオリ」を母、「中国百五十一号（ふくほのか）」の準同質遺伝子系統である「中国百五十一号（Pina-D1b、Glu-D1d）」を父として交配したF1を母とし、「中国百五十一号（Pina-D1b、Glu-D1d）」を父として一回の戻し交配を行い、選抜と固定が進められた。平成二十七年に「中国百六十八号」の系統名を付し、各府県での奨励品種決定調査に供試した後、「はるみずき」として品種登録出願が行われた。

本県では、平成二十九年度から令和二年度まで奈良県農業研究開発センターにおいて奨励品種決定調査を実施した結果、その優秀性を認め、奨励品種として指定する。

#### 三 特性の概要

##### 1 形態的特性

「ふくはるか」に比べて稈長<sup>かん</sup>及び穂長はやや長い。

##### 2 生態的特性

「ふくはるか」に比べて出穂期は五日早く、成熟期は一日早い。

##### 3 収量及び品質

- (一) 収量は、「ふくはるか」に比べて「やや多」である。
- (二) 外観品質は、「ふくはるか」と同等である。
- (三) 開花期追肥の量を窒素成分十アール当たり八キログラムとした場合、「ふくはるか」に比べて原麦のタンパク質含有率は一・二パーセント高い。

#### 四 栽培上の注意点

- 1 湿害を避け、十分な茎数及び穂数を確保するため、は種前から生育期間中を通して徹底した排水対策を行う。
- 2 は種が遅れると成熟期が遅れ、収量及び品質が低下する一方、早播<sup>ま</sup>きすると凍霜害の危険性が高まるため、適期は種に努める。

3 用途に応じたタンパク質含有率とするため、必要に応じて出穂後の追肥を行うこととなるが、極端な多肥とならないようにする。

4 穂発芽性は「やや難」であるが、適期収穫できるよう努める。

## 五 適応地帯

県内平坦部の小麦普及地帯